

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

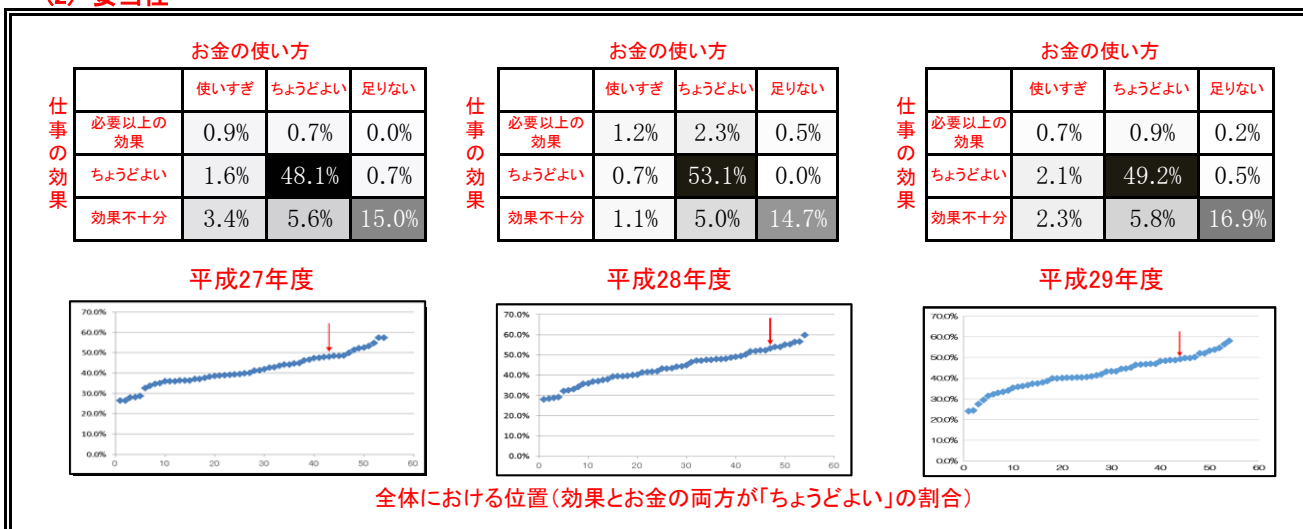
総合計画上の位置付け	分野	総合交通	施策の方針	交通安全意識の高揚
目標とすべきまちの姿	交通安全意識の普及徹底などの取組を推進することで、交通安全対策の必要性を市民が認知し、市民の交通安全意識が高まっています。 関係機関、団体及び市民の協力により、交通事故の発生件数は年々減少しています。 また、自転車利用者の交通マナーが向上し、市民が安心して暮らせる快適なまちとなっています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	17.6%	平成28年度	16.2%	平成29年度	17.0%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	26.7%	48.5%	2.8%	22.0%
平成28年度	24.5%	51.2%	3.2%	21.1%
平成27年度	23.5%	48.5%	4.1%	23.9%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

- ①年間の交通事故発生件数の減少と交通事故件数の減少。(防安-09)
- ②園児、児童を対象した歩き方教室、小学生1年生から6年生を対象にした自転車教室など交通安全教室の実施。(防安-09)
- ③自転車マナーアップキャンペーンの実施、広報かまくらに自転車マナーアップの周知。(防安-09)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

- ①交通事故発生件数の抑制には、各世代に応じた交通安全教育を一層の充実を図ることで、抑制効果がある。(防安-09)
- ②自転車の安全な利用の促進に関する施策を推進し、大船、鎌倉警察、交通安全協会等と連携し、広報啓発活動の充実等を進めていく。(防安-09)
- ③新入学児童から成人、高齢者向けの交通安全教室等の実施し、自転車のマナーアップが図られる。(防安-09)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
防安-09	交通安全対策事業	16,699	20,441	40,653	40,092	2.5	2.2		b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

①新入学児童や幼稚園・保育園児を対象とした交通安全教室、小・中・高校生を対象とした自転車教室、成人、高齢者向けの交通安全教室等の実施。(防安-09)

②鎌倉、大船警察署、交通安全協会等と連携した交通安全キャンペーン等の実施。(防安-09)

③自転車の安全な通行帯の確保を目的に自転車左側通行帯の路面標示を実施。(防安-09)

【実施できなかった事業とその理由等】

①成人、高齢者向けの交通安全教室等の実施回数を増やす予定であったが、人員不足で実施回数を増やすことができなかった。(防安-09)

③自転車の安全な通行帯の確保を目的とした自転車左側通行帯の路面標示の拡充を予定していたが、対象としていた道路の舗装状態が悪いため、施工ができなかった。(防安-09)

(5) 平成29年度の実施の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	☒ 適切	☐ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	☒ 適切	☐ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・市民に交通安全意識の徹底を図るため、啓発活動や交通安全教育を継続したことで、意識の向上が概ね図られている。
- ・大船、鎌倉警察署、道路管理者、教育委員会等の円滑な連携が図られ、円滑な交通安全対策が実施された。
- ・自転車指示標示を施工したことで、自転車運転者の視認効果を高めることが図られた。

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ・交通安全意識は現在の取組みを継続しながら、警察等との連携を強化し、市民等への推進と意識の高揚を図る。
- ・本市の交通事故発生件数及び死傷者数は減少傾向であったが、昨年は増加傾向に転じたため、交通安全の意識啓発は重要であると考え、引き続き関係機関との連携を深め交通事故防止の意識啓発に取り組んでいく。
- ・平成30年度のスクールゾーン等対策の推進により、歩行者の安全な歩行空間を整備し、各世代に応じた交通安全教育を一層の充実を図る。

(7) 平成30年度の目標

- ①年間の各種年齢に応じた交通安全教室の実施。(防安-09)
- ②自転車マナーアップキャンペーンの実施。(防安-09)
- ③路面標示による注意喚起の拡大。(防安-09)
- ④通学路における危険箇所の合同点検実施回数及び参加小学校の拡大(防安-09)
- ⑤歩行空間の確保を目的としたカラー舗装の充実(防安-09)

(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性

- ①交通安全意識の継続による効果。
- ②市内の自転車の交通事故発生件数は増加傾向となっており、今後も、子どもから高齢者まで、各世代に応じた交通安全教育の拡大・充実を図るとともに、自転車の安全な利用の促進に関する施策を推進していく。
- ③④⑤警察、道路管理者、市内交通関係機関等との連携を密にして、総合的・効果的なスクールゾーン等の交通安全対策を推進していく。

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	防安-09	事業名	交通安全対策事業									
指標の内容	年間交通事故死者数を0人とする。						単位	人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
平成28年度以降については、「第10次鎌倉市交通安全計画(平成28年度～32年度)」の目標値。		目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
		実績値	2.0	3.0	1.0	3.0						
		達成率	—	—	—	—						

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・事故の被害者を減らす一方、事故の加害者を減らすという観点も必要である。
- ・交通安全教室やキャンペーンの実施以外、あまり具体性がなく、有効性について「事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している」といえるかは鬼門である。各世代に応じた交通安全教育の充実が必要ではあるが、工夫が求められる。
- ・交通安全意識の啓発やキャンペーンを行っているが、特に近年問題になっている高齢者の運転に対する対策について、重点的に取り組んでほしい。鎌倉は高齢化が進んでおり、また車が必須の地域もある。



指摘への対応、コメント等

- ・事故を起こさないという観点で、交通安全意識啓発を継続して取り組んでいく。
- ・様々な機会を捉えて、幅広い年齢を対象に参加型の交通安全教室を検討していく。
- ・神奈川県、警察署、交通安全協会等と連携し、高齢者事故防止運動として展開していく。

提言

・高齢化の進展・観光客の増加に伴い「自転車事故対策」が急務である。「被害者になりうる市民への啓蒙」は勿論必要であるが、「加害者になりうる市民への対応」を検討すべきである。

・高齢者ドライバーの多い鎌倉市において、警察署、教習所等の協力を得ながら、高齢者ドライバーの積極的な免許返納を推し進めることを求める。

・鎌倉市は市民への意識高揚を図っても交通事故を減少させるのは難しい。観光客の多さ、道路事情の悪さ等、考慮し、対策を考えていくべきである。

・各世代に応じた交通安全教育の実施は継続することを求める。

・レンタル自転車に乗っている観光客のマナーは改善されているが、サーファーなど地元民のマナーは一向に改善されていない。取り締まりの強化を行うべき。

・公共交通などとの連携により(公共交通の利便性を図ることにより)、結果として交通事故の減少に繋がることもあるのでは。

提言に対するコメント等(総論)

本市の交通事故発生件数及び死傷者数は減少傾向であったが、昨年は増加傾向に転じたため、交通安全の意識啓発は重要であると考え、引き続き関係機関との連携を深め交通事故防止の意識啓発に取り組んでいく。

・神奈川県、警察署、交通安全協会等と連携し、高齢者事故防止運動として展開していく。

・道路管理者と連携しながら、歩き方、自転車教室など現況の実情に沿って取り組んでいく。

・様々な機会を捉えて、幅広い年齢を対象に参加型の交通安全教室を検討していく。

・自転車マナーアップキャンペーンと広報での周知等を継続し、警察と連携し路上指導に努めていく。

・鎌倉市交通安全対策協議会で様々な意見交換を行い、交通事故の減少に努めていく。



鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・自転車に係る交通事故件数の減少していることは良い。
- ・関係機関、団体及び市民の協力により、交通事故の発生件数は年々減少していることは評価できる。
- ・新入学児童や幼稚園・保育園児への交通安全教室、小・中・高校生への自転車教室、成人、高齢者向けの交通安全教室等の実施している。
- ・自転車左側通行帯の路面表示の実施を引き続き行っている点。路面表示される箇所が増えることを希望する。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	1	↘	1	→		→
効果	○	0	△	1	—		—

《課題》

- ・交通安全教室、自転車教室、交通安全教室等の実施は大事なことである。一方、ある意味ではあたりまえの内容。各世代に応じた交通安全教育の充実が必要ではあるが、工夫がほしい。
- ・実施内容が良くないと思わないが、交通安全・安心のまちに向けて効果が出ているのかは、評価シートからは未だ読み取ることができない。

《提言》

- ・目標とすべきまちの姿との関連性部分に記載のある「各世代に応じた交通安全教育の充実を～」の部分が非常に大事だと思っているので、具体策の計画・効果を期待している。
- ・自転車左側通行帯の路面表示を実施した効果の検証がほしい。取り締まりや注意喚起月間等を設けるなどして、ルールの徹底を図ってほしい。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある「交通安全意識の普及徹底などの取組を推進することで、交通安全対策の必要性を市民が認知し、市民の交通安全意識が高まっています。」について、交通安全対策の必要性の市民の認知度はどのように確認しているのか？また「交通安全意識」は高まっているのか？調査の上、指標とすべき。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある「関係機関、団体及び市民の協力により、交通事故の発生件数は年々減少しています。」について、関係機関等はどのような協力をしているのか？また、これに行政機関はどの様に関わっているのか？明確にして、それに対応した事業を実施すべき。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある「自転車利用者の交通マナーが向上し、市民が安心して暮らせる快適なまちとなっています。」について、「自転車利用者のマナー」はどのように確認しているのか？確認して「指標」とすべき。
- ・「市民に交通安全意識の徹底を図るため、啓発活動や交通安全教育を継続したことで、意識の向上が概ね図られている。」とあるが、どのような方法で確認しているのか？アンケート等により客観性があるデータがあるのであれば指標とすべき。